

光一中だより

教育目標

- 自主的に学び、考え、実行する人
- 心豊かで、ともに助け合う人
- 健康で、勤労を愛する人

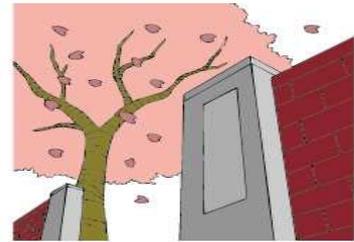


練馬区立光が丘第一中学校
校長 豊田 貴志
令和6年度 第1号
令和6年4月11日

「見えない心を見えるものにする」

校長 豊田 貴志

4月9日（火）に光が丘第一中学校の41回目の入学式が挙行されました。例年だと入学式にはピークを過ぎていることも多いのですが、今年は校庭のソメイヨシノも咲き誇り新入生のみなさんの入学を待っているかのようなようでした。入学式では緊張した表情もありましたが、それ以上に今日から始まる新しい生活への期待を感じるものでした。新入生88名を新たに迎え、総勢242名の生徒とともに令和6年度がスタートしました。



中学校は上級生の姿をお手本に下級生が学んでいくという場であるべきだと考えています。そしてその姿勢が幾重にもつながっていくことが『伝統』と呼ばれるものなのではないでしょうか。入学式に臨む上級生たちはたいへん立派な態度でした。これからの学校生活が光一中の生徒にとって明るく、実り多きものになることを予感させるとともに、本校のよき『伝統』がいつまでも続いていくことを確信する日になりました。

さて、令和6年度の光が丘第一中学校の目標をひとつ掲げます。『あいさつを日本一できる学校』になりましょう。ここで言うあいさつとは、おはようございます、さようならだけでなく、ありがとうございます、お願いします、といった感謝の気持ちを表すような言葉も含んでいます。



私たちの心は誰にも見えません。だから形に表すことが大切です。形とは言葉や態度と言い換えることができます。気持ちの良いあいさつをしたり、感謝の気持ちを伝えたり、人を思いやる気持ちを言葉や行動に合やすことは、『見えない心を見えるものにする』ことです。これらは私たちが他の人とのよい距離感をつくっていく上でとても大切なことです。光一中の生徒全員が、自分の良い心や気持ちを素直に言葉や態度に表せる人になって欲しいと願っています。

あらゆる場面であいさつをし、感謝の気持ちを言葉や態度に表し、自分の見えない心をきちんと他の人に伝えることのできる人になりましょう。それが令和6年度の光一中の目標であり、テーマです。